

わが国の高等教育における 分野別質保証の現状

日本医学教育学会45周年記念シンポジウム

大学評価・学位授与機構 特任教授

川口昭彦

分野別質保証の現状

- 質および質保証とは？
- 高等教育の質保証システム
- 認証評価（機関別認証評価および専門分野別認証評価）の現状と課題
- 内部質保証システム
- 資格枠組とグローバル化する質保証

次元の異なる「質」がある

	具体的内容
インプット (投入)	教育研究活動等を実施するために投入された財政的、人的、物的資源をさす。
アクション (活動)	教育研究活動等を実施するためのプロセスをさす。計画に基づいてインプットを動員して特定のアウトプットを産み出すために行われる行動や作業をさす。
アウトプット (結果)	インプットおよびアクションによって、大学(組織内)で産み出される結果をさす。
アウトカムズ (成果)	諸活動の対象者に対する効果や影響も含めた結果をさす。学生が実際に達成した内容、最終的に身につけたもの、刊行された論文の効果や影響などである。

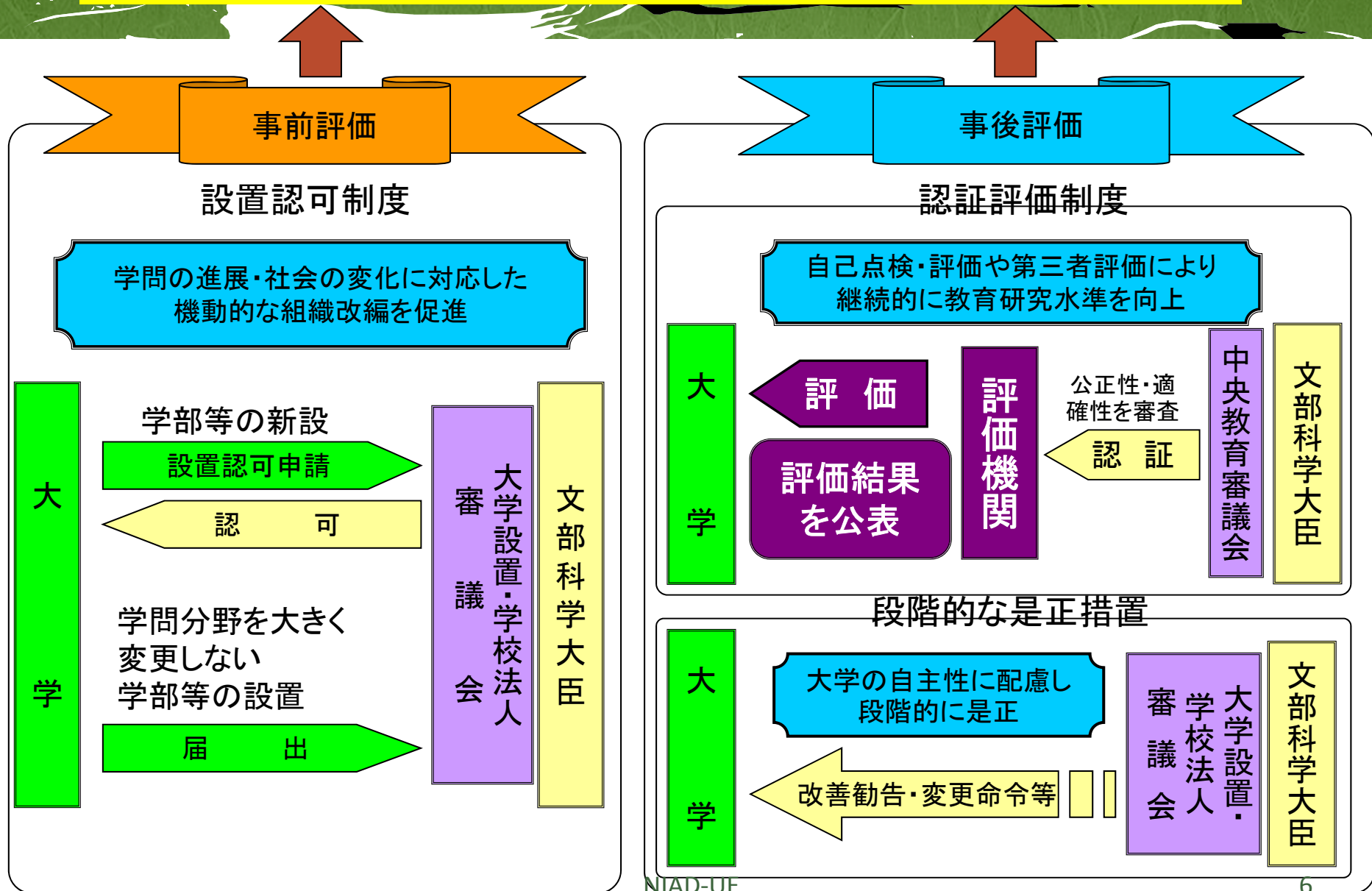
質保証するための視点

- 卓越性（高い水準の質）
- 基準に対する適合性
- 目的に対する適合性
- 機関の目標の達成度
- 関係者の満足度

高等教育の質保証システム

- 内部質保証：第一義的に機関（組織）自身の責任である。
- 外部質保証：設置基準、設置認可（事前規制、最低限の水準を保証・確保）、認証評価（事後チェック、適格認定と教育研究の質の向上を促進）
- 内部質保証は、各機関（組織）が独自の考え方に基づいて実施しても、社会から観て理解できないこともある。内部質保証にも、ある程度共通的な基準や指標が必要である。
- 一方で、機関（組織）の特色（個性）を明確に発信しなければならない。

事前・事後の評価の適切な役割分担と協調による質保証



学校教育法が定める認証評価

- 大学は、教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営および施設設備（教育研究等）の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表する。
- 大学は、教育研究等の総合的状況について、一定期間ごとに認証評価機関の評価を受ける（認証評価）。
- 認証評価は、認証評価機関が定める評価基準にしたがって行う。

認証評価

□ 機関別認証評価

- 機関全体（大学院、大学、短期大学、高等専門学校）が対象となる。
- 7年ごとに評価を実施する。

□ 専門分野別認証評価

- 専門職大学院が対象となる。
- 5年ごとに評価を実施する。

□ 認証評価以外の分野別評価：薬学教育、リハビリテーション教育、工学教育（JABEE）

認証評価の目的

- 教育研究などの諸活動の質を保証する。
- 諸活動の質の改善・向上に資する。
- 諸活動について社会的説明責任を果たす。
 - 第三者評価機関が果たすべき社会的説明責任：大学が実施している諸活動の質の現状分析と保証
 - 大学自身が発信する情報だけでなく、第三者評価機関による評価結果も不可欠な情報である。

専門職大学院認証評価（例）

- 評価基準に基づく評価
 - 基準 1 目的および入学者選抜
 - 基準 2 教育課程
 - 基準 3 学習成果
 - 基準 4 教職員組織等
 - 基準 5 学習環境
 - 基準 6 教育の質の改善・向上
- 学習成果を中心とした評価
- 大学院の個性の伸長に資する評価
- 自己評価に基づく評価
- ピア・レビューを中心とした評価
- 透明性の高い開かれた評価

認証評価（高等教育評価）の課題

- アカウンタビリティ（社会に成果を示す）と改善（質の向上に反映させる）という機能の両立は難しい。
- インプットとプロセスに関する基準が、学習に関するアウトプットの測定やアウトカムズの実績分析よりはるかに重要視されている。
- 最低基準の指標が、卓越性指向の基準より広く使用されている。

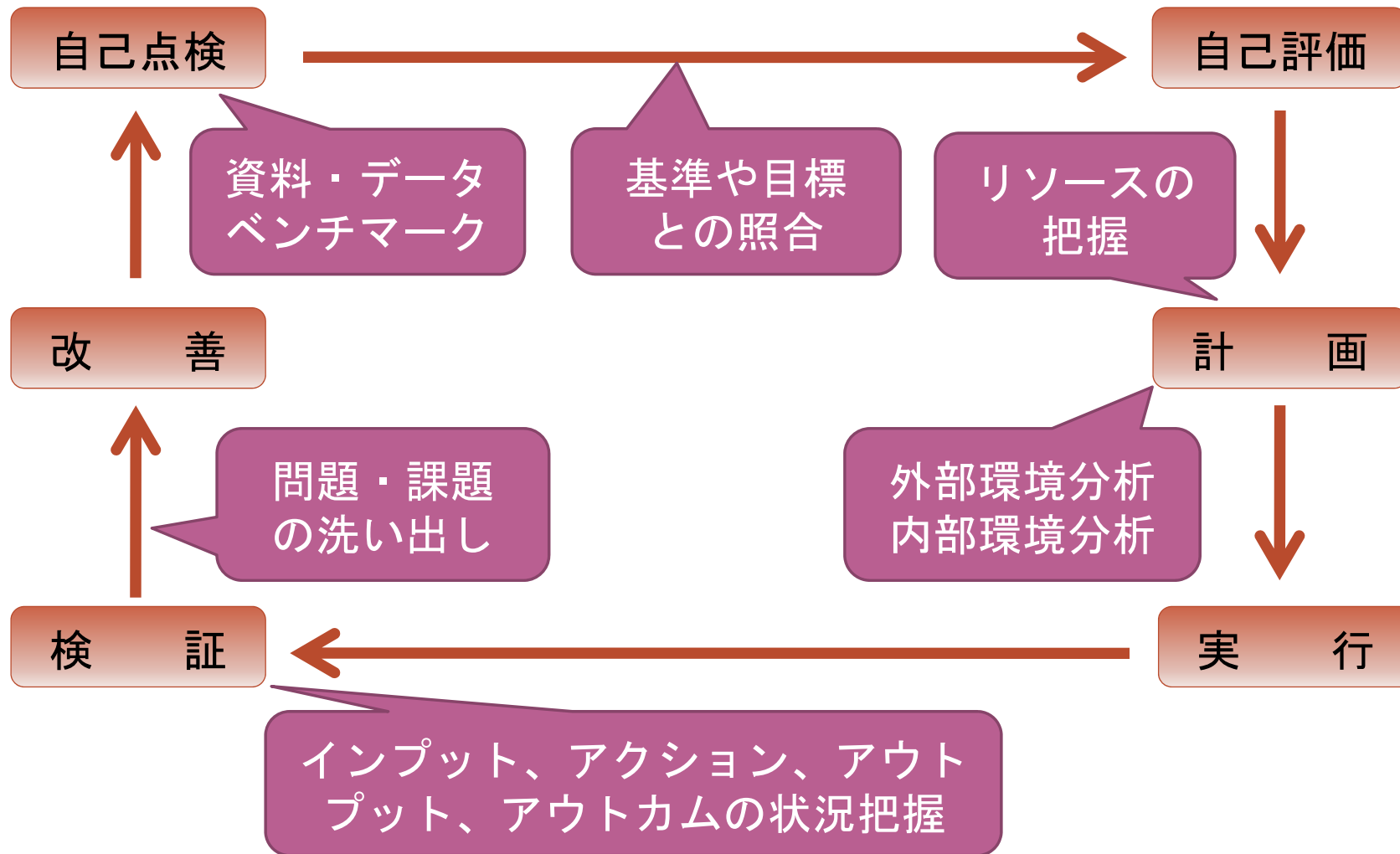
『進化する大学機関別認証評価 - 第1サイクルの検証と第2サイクルにおける改善 -』を参考

http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/jouhou/_icsFiles/afieldfile/2013/05/22/no6_12_soukatsu.daigaku.pdf

内部質保証システム

- 自主・自律を標榜する大学は、自らの責任で諸活動について点検・評価を実施し、その結果に基づいて改革・改善を図る必要がある。
- 大学の質を自ら保証することができる内部質保証システムを構築することが不可欠である。
- 認証評価の役割は、そのシステムが機能しているかどうかを第三者機関として検証する。
- 内部質保証システムが十分機能していることが、自律的組織体としての証明である。

内部質保証システムの概要



質保証の最重要課題は学習成果

- 教育 = 教授 (Teaching) + 学習 (Learning) であり、学生の学習成果 (Learning Outcomes) について社会に明示することが重要である。
- 期待される学習成果 (Expected Learning Outcomes) を明示する。
- その学習成果の達成状況 (Achieved Learning Outcomes) を定期的に分析する。
- その分析結果を社会に向けて発信するとともに質の改善・向上に資することが求められる。

資格枠組

- 資格（Qualifications）への着目：学校教育、職業訓練、高等教育、継続教育により獲得した技術、能力、知識の証明
- 資格枠組みの効用：生涯を通じて、国を超えて、また国内において学習者・就業者の学習・訓練と移動に有用
 - 学習経路の明確化
 - 異なる教育セクター一間の架橋
 - 多様な学習成果の認証

高等教育質保証が求められる背景

- 高等教育の大衆化・ユニバーサル化
 - 高等教育を維持する費用の増大
 - 効率的配分、パフォーマンスによる配分
 - 評価に基づく配分
- 高等教育機関の質保証をめぐる国際的動向
 - WTOを中心とした消費者保護の動き
 - OECD/UNESCOでの国際的質保証の検討
 - 何らかの評価が必要

高等教育質保証が求められる背景

- 高等教育機関間の国際競争
 - 国の国際的競争力の向上
 - 学生の獲得競争、研究費の獲得競争
 - 質保証が必要
- 多様な教育プロバイダーとの競合
 - IT技術による遠隔授業（e-learningなど）
 - 学位や資格の取得
 - 既存の高等教育システムの破壊
 - 質保証が唯一の武器



ご清聴ありがとうございました。



日本医学教育学会大会 COI 開示

筆頭発表者名：川口 昭彦

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業などはありません。